

Ⅲ-3. 福山市の取り組みの論点

【取り組みの特徴】

- 市街地の拡散が進むなかで、バス利用者が減少しバス路線の維持が困難に。公共交通サービス水準の低下、路線の廃止が問題として顕在化している状況。
- そのために運行の効率化を図り、バス事業者の負担を軽減すべく、行政が音頭をとってゾーンバスシステムの導入を進めている。
- また、路線の維持のための枠組みとして、維持を図るべき路線の判断基準や運行サービスの最低水準を設定。路線及びサービス水準維持のために必要な支援を行政が一定の枠組みの中で行う。

【主な論点】

①行政サービスとして維持すべきバス路線の判断基準について

… 民間バス事業に対して行政が支援を行う範囲をどのように考えるか

- ・需要の大きさに対応した公共交通運営の考え方

中心部 高密市街地	周辺部 中密市街地	郊外部 多自然、低密市街地
・公共交通に対する高いニーズが存在	・公共交通に対する一定のニーズはあるものの、民間だけでは運営困難 ・効率的な都市運営のために公共交通必要	・公共交通に対するニーズ低い ・個別サービスの方が効率的
⇒民間事業として公共交通事業が成立	⇒公共、民間、利用者が協働で公共交通運営	⇒居住者の自己責任、維持のための行政支援は行わない

- ・補助対象とする路線の判断基準

－需要の水準、ネットワークや都市構造の視点における重要性

②バスによる幹線軸の構築に向けた方策について

… 公共交通幹線として備えるべきサービス水準をどのように考えるか、いかに実現するか

- ・バス路線再編に向けた民間事業者間の調整（幹線と支線の分担等）

- ・自動車から公共交通への転換の推進策

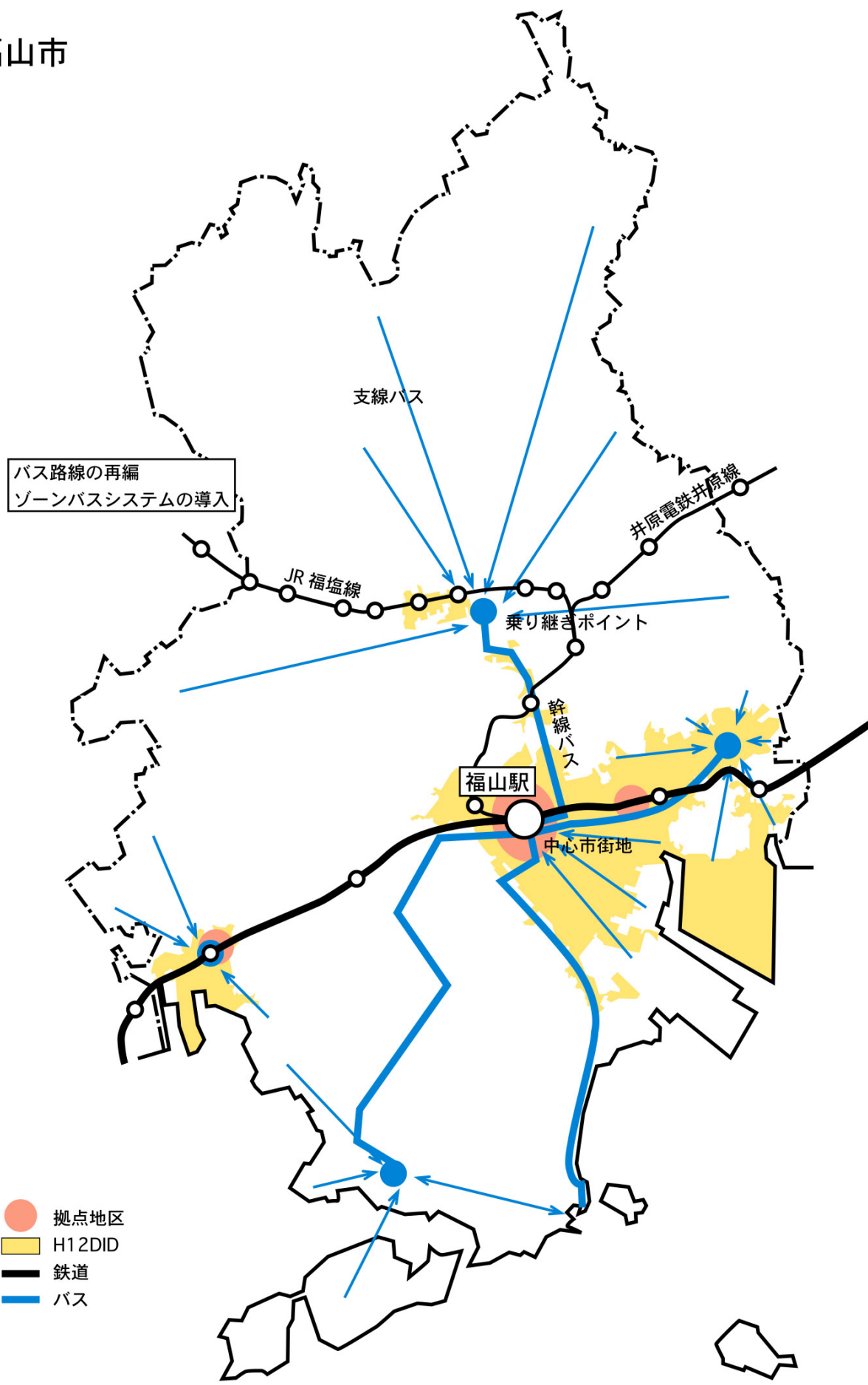
－公共交通幹線として備えるべきサービス水準の確保（定時制、所要時間の短縮、運行頻度の増加、運行時間の拡大等） …バス優先レーンの設置、信号システムによる対応 等

－自動車利用の抑制 …ノーマイカーデーの実施 等

③鉄道の活用可能性について

… JR福塩線、井原電鉄を公共交通幹線と位置づけ、利用促進を図る取り組みは考えられないか

福山市



バス路線の再編
ゾーンバスシステムの導入

支線バス

井原電鉄井原線

JR 福塩線

乗り継ぎポイント

幹線バス

福山駅

中心市街地

- 拠点地区
- H12DID
- 鉄道
- バス